

## 第 28 回日本磁気共鳴医学会大会 フィルムリーディングセッション解答と解説

杉村 和朗  
細矢 貴亮

画像診断関係の学会では、フィルムリーディングセッションが必須のプログラムとなっている。そのような理由で、今回の磁気共鳴医学会大会でも行うことになった。ただし、磁気共鳴医学会を標榜している以上、他の画像診断学会とは異なり、磁気共鳴画像が診断の決め手になった症例を集めてほしいというのが、大会長の希望であった。フィルムリーディングが根強い人気を保っている原因として、一流の診断医の読影プロセスを、読影法の参考にしようというところにある。それ以外に、競技としての面白みという一面もある。そこで今回は、たまたま司会（杉村、細矢）が東西に分かれているという関係から、各領域の読影医を東西に分けて対抗する形をとるようにした。時間が限られているため、脳神経、上腹部、骨盤部の3領域とし、東西から各々一名ずつお願いした。いずれも、その領域で第一人者の先生方である。対抗形式にするため、症例は各先生方に選んでいただき、パートナーに出題し、解説してもらうことにした。

いずれの症例も、教育的でかつ興味深いうえに、診断に磁気共鳴画像が決め手になった症例ばかりであり、非常に吟味されていた。解答者は当日会場で初めて写真を目にするというタフな状況であった。一般公募での正答率は、ほとんどの問題が正答率20%弱であり、かなり難しい症例ぞろいであったといえる。同じ条件であった解答者が、正確に所見をとらえ、豊富な知識に基づいて正解にたどり着いていたのはさすがであった。参加者にとって、今後の読影法について、大変参考になったものと考え。

このような素晴らしい症例を忘れ去ってしまうのは残念であるため、演者の先生方にはご苦勞であるが、解答集の作成を依頼した。類似した症例に遭遇した折りに参考となればありがたい。

最後に、西川大会長を始め運営に当たられた先生方、解答集作成にご尽力くださった諸先生に御礼申し上げます。